

列	項目			説明	
A	No			通し番号。	
★作業者がサンプルを見て判定する項目。					
B	判定	レル・ラレルの意味	上位	いわゆるレル・ラレルの4分類である「受身」「尊敬」「可能」「自発」のうち1つを判定。	
C			下位	受身の種類	上位が受身なら間接受身か直接受身か持ち主の受身かを判定。
D				有情・非情	【レル形】の主語が有情か非情かを判定。
D				動作主の表示	動作主が【レル形】ではどのように表示されているかを判定。
E		表現全体の特徴	客観化	当てはまれば"○"を入力。判定方法は別シート【客観化】を参照のこと。	
F			存在確認	当てはまれば"○"を入力。判定方法は別シート【存在確認】を参照のこと。	
G			心情誘導	当てはまれば"○"を入力。	
★判定の材料となる項目。					
I	判断材料	先行研究での分類	大分類	「受身」「尊敬」「可能」「自発」と、尾上説の「意図成就」を含めた5分類。	
J			小分類	先行研究で使われているレル・ラレルの分類名称。	
K			説明	当該分類の特徴。	
L		影響の有無		上位が受身の場合のみ。影響の与え手から受け手への影響の有無。	
M		態変換		態の変換の有無。	
N		α	★動作主を表す。		
			種類A	有情か非情か、影響の受け手との関係などの特徴。 "- "は制限なし。"×"はあり得ない。	
O		β	種類B	発話者との関係。小説などでは、登場人物の名前など三人称が発話者になることがある。 自：発話者 他：発話者以外で特定可能 般：世論、一般的にという場合	
P			★対象を表す。		
		γ	種類A	有情か非情か、影響の受け手との関係などの特徴。 "- "は制限なし。"×"はあり得ない。	
Q			種類B	発話者との関係。小説などでは、登場人物の名前など三人称が発話者になることがある。 自：発話者 他：発話者以外で特定可能 般：世論、一般的にという場合	
R		δ	★αとβ以外に必須な格要素であり、当該表現の主語になるもの。		
			種類A	有情か非情か、影響の受け手との関係などの特徴。 "- "は制限なし。"×"はあり得ない。	
S		ε	種類B	発話者との関係。小説などでは、登場人物の名前など三人称が発話者になることがある。 自：発話者 他：発話者以外で特定可能 般：世論、一般的にという場合	
T			直前要素	★レル・ラレルの（基本的に）直前の語彙素。“サ変名詞＋スル”ならサ変名詞。	
			自他	自動詞か他動詞か。	
			意味	小山田の恣意的分類。"- "は制限なし。	

列	項目		説明
U		サンプルID	BCCWJのサンプルはそのID、参考文献の例は文献番号を記す。
V		サンプル	サンプルから該当箇所の抜き出したもの。
W	典 型 例	【レル 形】	★レル・ラレルが後続した格パターン。
			型 格要素を記号化し、必須要素のみを表示。
X			表現 サンプルから型部分のみ抜き出し。丸括弧内は補った表現。斜線は要素の対応がとれないもの。
Y		【レル なし 形】	★レル・ラレルが後続する直前要素の元々の格パターン。
			型 格要素を記号化し、必須要素のみを表示。
Z			表現 サンプルから型部分のみ抜き出し。丸括弧内は補った表現。斜線は要素の対応がとれないもの。
AA		備考	メモ。

※ W列とY列： $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma$ 以外にもレル・ラレルの直前要素によっては必須要素がある場合は δ を用いる。